

# 母親が感じる育児上の「困難」に関する研究(2)

— 幼稚園と保育園における3歳児の母親の調査から —

窪 龍 子

実践女子大学人間社会学部

井 狩 芳 子

和泉短期大学児童福祉学科

## I. 問題と目的

本研究の前報では、今日の日本で育児が困難になった原因について、鯨岡(2002)の説を引用し、育児上の困難が引き起こされる状況について検証した。

鯨岡は、〈育てられる者〉から〈育てるもの〉へ変身すること、すなわち養育者になることは、もとより簡単なことではないことを指摘した上で、育児上の困難は、第一に社会構造の変化によって、共同体的援助のもとで営まれてきた出産や育児が核家族内部での個人的な営みになったことが、その背景にあることを挙げている。

そして、育児上の困難は次のような要因により引き起こされていると述べている。(1) 出産が「計画通り」「思い通り」にできるようになると、育児も親の「思い通り」にしようとする。(2) 親は社会で求められている価値観に引きずられ、メディアに登場する明るいだけの乳児イメージに惑わされ、負の面をもたない「良い子」を育てようとする。その成果が〈育てる者=親〉の評価になるため、子ども親も追い詰められる。(3) 人は誰でも「自己充実欲求」を持っているのだが、自らの欲望の何割かを割かなければ親として成熟していくことはできない。しかし現代社会では、各自が自己の欲望を充足することこそ幸せであると錯覚している。(4) 現実の育児場面では、共同責任者であるはずの父親は自分と平等に関わっていないことに気付くと、イライラが生じる。(5) 子どもが泣いたりむずかかったりする負の状態のときは、黙って抱えじっとしばらく付き合うしかないという状況があるが、これは、それまでの「原因を取り除いて問題を解決する」という方法では対処できない初めての体験となる。

前報においては、「子どもが言うことをきかない」と母親がイライラする割合が高かったことから、この項目を育児上の困難さを表す1つの指標として、子どもの生活との関係を検証した。育児上の困難が「特になし群」は、親が子どもにあたったりする割合が少ないこと、子どものマイナス感情表出が少ないこと、子どもに早寝早起きの生活習慣が身についていること、平日に戸外遊びが多いなどの結果が得られた。すなわち親の思いどおりに「子どもに言うことを聞かせよ

う」とすると、子どもとの軋轢が起こり、育児上の困難が増す可能性があることが推測された。これは、育児を「自分の思い通りにしようとする」と困難が引き起こされるという鯨岡の説を裏付ける結果であった。その一方で早寝早起きや戸外遊びの習慣を身につけさせることは、育児上の困難さを減少させるものとして考えられることを指摘した。

以上のことを踏まえ、母親たちは何を育児上の苦勞と考えているのかをさらに詳しく調査することによって、鯨岡の説を検証するとともに、育児上の苦勞や困難を軽減する条件についても検証することを目的とした。

育児の苦勞は子どもの年齢とともに変わってくることから、縦断的に調査を継続することを計画し、手始めに3歳児の保護者を調査対象とした。現代の親たちは、どのようなことを苦勞と感じているのか、また反対に育児に困難を感じないと回答する親の考え方や生活背景を調査することから開始した。

## II. 調査の概要

### 1. 対象園

神奈川県横浜市の住宅街にある N 幼稚園および茨城県下妻市にある T 保育園。

### 2. 調査方法

N 幼稚園および T 保育園の協力を得て、3歳児の保護者に対し、日常の育児の状況や子どもの生活のようすについて質問紙法による調査を実施した。

質問紙の内容については、添付資料参照。

### 3. 調査時期

2008年7月。

### 4. 回答者と回収率

質問紙の配布部数は、N 幼稚園へ 120 部、T 保育園へ 20 部配布。回答者数は、N 幼稚園 70 名、T 保育園 19 名であり、回収率は N 幼稚園 58.3%、T 保育園 95.0%であった。

## III. 調査の結果

### 1. 回答者（母親）の属性

#### (1) 母親の年齢と子どもの人数

今回の調査の回答者はすべて母親であった。表 1 に示したように、N 幼稚園の母親は 30

歳台に 72.9%、40 歳台以上が 12.9%で、平均年齢 35.7 歳であったのに対し、T 保育園の母親は 30 歳台が 73.7%、20 歳台が 15.8%で、平均年齢 34.8 歳であった。やや N 幼稚園の母親の年齢の方が高かったが大差は見られなかった。

表 1 回答した母親の年齢 N(%)

	N 幼稚園	T 保育園	計
20 歳代	5 (7.1)	3 (15.8)	8 (9.0)
30 歳代	51 (72.9)	14 (73.7)	65 (73.0)
40 歳代以上	9 (12.9)	2 (10.5)	11 (12.4)
不明	5 (7.1)	0	5 (5.6)
計	70 (100.0)	19 (100.0)	89 (100.0)

子どもの人数は、N 幼稚園では子ども 2 人という回答が 61.4%と特に多かったが、T 保育園では 2 人は 47.4%、子ども 3 人と 4 人以上は N 幼稚園よりも多い割合であった (表 2)。両園の子どもの人数の平均は 1.9 人であった。

表 2 子どもの人数 N(%)

	N 幼稚園	T 保育園	計
1 人	19 (27.1)	5 (26.3)	24 (27.0)
2 人	43 (61.4)	9 (47.4)	52 (58.4)
3 人	8 (11.4)	3 (15.8)	11 (12.4)
4 人以上	0	2 (10.5)	2 (2.2)
計	70 (100.0)	19 (100.0)	89 (100.0)

## (2) 家族構成と住居形態

表 3 と表 4 に示したように、N 幼稚園は核家族 88.6%、拡大家族 8.6%であったが、T 保育園は核家族 68.4%、拡大家族 31.6%であった。住居形態については、N 幼稚園では集合住宅に住む割合が 58.6%、一戸建て住宅が 40.0%であるのに対し、T 保育園では集合住宅 36.8%、一戸建て住宅 57.9%であった。

表 3 家族構成 N(%)

	N 幼稚園	T 保育園	計
核家族	62 (88.6)	13 (68.4)	75 (84.3)
拡大家族	6 (8.6)	6 (31.6)	12 (13.5)
その他	2 (2.9)	0	2 (2.2)
計	70 (100.0)	19 (100.0)	89 (100.0)

表4 住居形態 N(%)

	N 幼稚園	T 保育園	計
一戸建て	28 (40.0)	11 (57.9)	39 (43.8)
集合住宅	41 (58.6)	7 (36.8)	48 (53.9)
不明	1 (1.4)	1 (5.3)	2 (2.2)
計	70 (100.0)	19 (100.0)	89 (100.0)

つまり、N 幼稚園では核家族で集合住宅に住む家庭が多い傾向がみられ、T 保育園でも核家族の方が多いのだが、拡大家族がN 幼稚園の3.7倍であり、一戸建て住宅に住んでいる割合も多かった。

(3) 母親の職業の有無

表5には、園別に母親の職業の有無を示している。T 保育園の母親は全員「職業あり」と回答しているが、N 幼稚園の母親も31.4%が「職業あり」と回答していた。

表5 母親の職業の有無 N(%)

	N 幼稚園	T 保育園	計
あり	22 (31.4)	19 (100.0)	41 (46.1)
なし	47 (67.1)	0	47 (52.8)
不明	1 (1.4)	0	1 (1.1)
計	70 (100.0)	19 (100.0)	89 (100.0)

2. 育児の状況

(1) 主たる養育者とその役割に対する納得度

表6には、「主たる養育者とその役割に対する納得度」について示した。N 幼稚園では70名中51名(72.9%)、T 保育園では19名中9名(47.4%)が、母親自身が「主たる養育者」として回答している。あとのそれぞれ19名(27.1%)と10名(52.6%)が、「配偶者と半々」という回答であり、「配偶者が主たる養育者」という回答は皆無であった。この役割分担に対して、納得しているか否かについては、両園とも約4分の3が「納得している」という回答であり、4分の1が「時々納得できない」という回答であった。「時々納得できない」という回答は、N 幼稚園では全員「母親が主たる養育者」の回答者であったのに対し、T 保育園では、「母親が主たる養育者」と「配偶者と半々」の回答者に分かれた。その「時々納得できない」という回答者に、自由記述で改善策を尋ねたところ、N 幼稚園では「配偶者の理解」という回答が9名、「社会の制度の改善」という回答2名であったのに対し、T 保育園では「社会制度の改善」が3名、「配偶者の理解」が2名であった。N 幼稚園の方が配偶者への理解を求める割合が高かった(表7)。

表6 主たる養育者とその役割に対する納得度 N(%)

	N 幼稚園			T 保育園			計
	母親が主	配偶者と半々	小計	母親が主	配偶者と半々	小計	
納得している	36 (70.6)	17 (89.5)	53 (75.7)	6 (66.7)	8 (80.0)	14 (73.7)	67 (75.3)
時々納得できない	15 (29.4)	0	15 (21.4)	3 (33.3)	2 (20.0)	5 (26.3)	20 (22.5)
納得できないことが多い	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	2 (10.5)	2 (2.9)	0	0	0	2 (2.2)
計	51 (100)	19 (100)	70 (100)	9 (100)	10 (100)	19 (100)	89 (100)

表7 現状の役割分担に対する改善策（自由記述） N(%)

	N 幼稚園	T 保育園	計
社会制度の改善	2 (15.4)	3 (60.0)	5 (27.8)
配偶者の理解	9 (69.2)	2 (40.0)	11 (61.1)
その他	2 (15.4)	0	2 (11.1)
回答者数	13 (100.0)	5 (100.0)	18 (100.0)

表8 0歳時・うれしかったこと（自由記述・複数回答） N(%)

	N 幼稚園	T 保育園	計
初めて何かができるようになった時	21 (32.8)	8 (47.1)	29 (35.8)
無事に誕生したこと	16 (25.0)	2 (11.8)	18 (22.2)
笑顔を見せる時	15 (23.4)	3 (17.6)	18 (22.2)
存在そのもの、すべて	8 (12.5)	0	8 (9.9)
頼りにされていると感じる時	4 (6.3)	1 (5.9)	5 (6.2)
子どもの姉の関わり、育児の手伝い	4 (6.3)	1 (5.9)	5 (6.2)
日々の成長が見られた	0	3 (17.6)	3 (3.7)
その他	3 (4.7)	0	3 (3.7)
回答者数	64	17	81

(2) 育児上の喜びと苦勞

自由記述によって記された、子どもが0歳の時と1歳の時にうれしいと感じたという内容を表8と表9に示した。0歳の時には、「初めて何かができたこと、成長」35.8%、「無事に誕生したこと」22.2%、「笑顔を見せる時」22.2%などが主なものであり、1歳の時には「何かができるようになったこと、成長」が66.7%と最も多い回答であった。

表9 1歳時・うれしかったこと（自由記述・複数回答） N(%)

	N 幼稚園	T 保育園	計
何かができるようになった時、成長	35 (64.8)	11 (73.3)	46 (66.7)
無事に1歳になったこと	7 (13.0)	2 (13.3)	9 (13.0)
意思疎通ができるようになったこと	6 (11.1)	0	6 (8.7)
きょうだいの仲が良いこと	5 (9.3)	0	5 (7.2)
笑顔を見せる時	4 (7.4)	0	4 (5.8)
子どもに必要とされていること	3 (5.6)	2 (13.3)	5 (7.2)
その他	4 (7.4)	1 (6.7)	5 (7.2)
回答者数	54	15	69

表10 0歳時・苦勞したこと（複数回答） N(%)

	N 幼稚園	T 保育園	計
自由時間がとれない	24 (34.3)	7 (36.8)	31 (34.8)
夜泣きなど泣きに関すること	16 (22.9)	8 (42.1)	24 (27.0)
自分の健康維持、体調不良	21 (30.0)	3 (15.8)	24 (27.0)
初めてのことですべてが大変	8 (11.4)	6 (31.6)	14 (15.7)
常に世話をすることが求められる	10 (14.3)	3 (15.8)	13 (14.6)
子どもの気持ちがわからない	4 (5.7)	7 (36.8)	11 (12.4)
乳を飲まないなど食に関すること	7 (10.0)	2 (10.5)	9 (10.1)
配偶者の非協力	6 (8.6)	2 (10.5)	8 (9.0)
仕事と育児の両立	3 (4.3)	3 (15.8)	6 (6.7)
親たちの口出し	3 (4.3)	1 (5.3)	4 (4.5)
親しいママ友がない	1 (1.4)	1 (5.3)	2 (2.2)
経済的なこと	1 (1.4)	1 (5.3)	2 (2.2)
その他	14 (20.0)	1 (5.3)	15 (16.9)
特に苦勞と思ったことはない	10 (14.3)	3 (15.8)	13 (14.6)
回答者数	70	19	89

反対に、0歳の時から3歳の時まで、育児上の苦勞と感じた内容は、表10から表13のとおりであった。それぞれの年齢において上位3位までを挙げてみると、子どもが0歳の時には「自由時間がとれない」34.8%、「夜泣きなど泣きに関すること」27.0%、「自分の健康維持・体調不良」27.0%であり、1歳の時には「動きまわるので目が離せない」31.5%、「少食など食に関すること」29.2%、「自由時間がとれない」25.8%となり、2歳の時には「自由時間がとれない」29.2%、「子どもが言うことをきかない」29.2%、「子どもの食に関すること」28.1%、そして3歳の時には「子どもがいうことをきかない」29.2%、「自由時間がとれない」20.2%、「仕事と育児の両立」19.1%という回答であった。

表11 1歳時・苦勞したこと（複数回答）

N(%)

	N 幼稚園	T 保育園	計
動き回るので目が離せない	22 (31.4)	6 (31.6)	28 (31.5)
少食など食に関すること	20 (28.6)	6 (31.6)	26 (29.2)
自由時間がとれない	19 (27.1)	4 (21.1)	23 (25.8)
仕事と育児の両立	8 (11.4)	6 (31.6)	14 (15.7)
子どもの泣きに関すること	7 (10.0)	6 (31.6)	13 (14.6)
自分の健康維持、体調不良	9 (12.9)	2 (10.5)	11 (12.4)
配偶者の非協力	5 (7.1)	3 (15.8)	8 (9.0)
子どもの気持ちがわからない	3 (4.3)	4 (21.1)	7 (7.9)
日常生活のすべてが大変	5 (7.1)	2 (10.5)	7 (7.9)
親たちの口出し	2 (2.9)	3 (15.8)	5 (5.6)
親しいママ友がない	0	1 (5.3)	1 (1.1)
経済的なこと	0	1 (5.3)	1 (1.1)
その他	13 (18.6)	3 (15.8)	16 (18.0)
特に苦勞と思ったことはない	9 (12.9)	1 (5.3)	10 (11.2)
回答者数	70	19	89

表 12 2歳時・苦勞したこと（複数回答）

N(%)

	N 幼稚園	T 保育園	計
自由時間がとれない	24 (34.3)	2 (10.5)	26 (29.2)
子どもが言うことを聞かない	21 (30.0)	5 (26.3)	26 (29.2)
子どもの食に関すること	19 (27.1)	6 (31.6)	25 (28.1)
仕事と育児の両立	8 (11.4)	8 (42.1)	16 (18.0)
日常生活のすべてが大変	8 (11.4)	2 (10.5)	10 (11.2)
子どもの泣きに関すること	7 (10.0)	2 (10.5)	9 (10.1)
自分の健康維持、体調不良	6 (8.6)	1 (5.3)	7 (7.9)
配偶者の非協力	4 (5.7)	3 (15.8)	7 (7.9)
子どもの気持ちがわからない	2 (2.9)	4 (21.1)	6 (6.7)
親たちの口出し	2 (2.9)	3 (15.8)	5 (5.6)
経済的なこと	2 (2.9)	1 (5.3)	3 (3.4)
親しいママ友がない	0	2 (10.5)	2 (2.2)
その他	15 (21.4)	4 (21.1)	19 (21.3)
特に苦勞と思ったことはない	11 (15.7)	1 (5.3)	12 (13.5)
回答者数	70	19	89

表 13 3歳時・苦勞したこと（複数回答）

N(%)

	N 幼稚園	T 保育園	計
子どもが言うことを聞かない	20 (28.6)	6 (31.6)	26 (29.2)
自由時間がとれない	14 (20.0)	4 (21.1)	18 (20.2)
仕事と育児の両立	9 (12.9)	8 (42.1)	17 (19.1)
子どもの食に関すること	13 (18.6)	1 (5.3)	14 (15.7)
自分の健康維持、体調不良	10 (14.3)	3 (15.8)	13 (14.6)
日常生活のすべてが大変	10 (14.3)	2 (10.5)	12 (13.5)
子どもの泣きに関すること	7 (10.0)	2 (10.5)	9 (10.1)
子どもの気持ちがわからない	3 (4.3)	2 (10.5)	5 (5.6)
配偶者の非協力	2 (2.9)	3 (15.8)	5 (5.6)
経済的なこと	3 (4.3)	2 (10.5)	5 (5.6)
親たちの口出し	0	2 (10.5)	2 (2.2)
親しいママ友がない	0	1 (5.3)	1 (1.1)
その他	16 (22.9)	4 (21.1)	20 (22.5)
特に苦勞と思ったことはない	17 (24.3)	3 (15.8)	20 (22.5)
回答者数	70	19	89



苦労がある場合に最も頼りにしたのは誰かという質問に対して、自由記述による回答は表14～17のとおりであった。この結果を、原家族を含めて「身内」と「他人」とに分類して見ると、どの年齢でも「身内」という回答が圧倒的に多いが、子どもの年齢が上がるにつれて、徐々に「他人」の中に「友達」が増えていることが分かる。また少数ではあるが「いない」という回答も各年齢にみられた。

表 14 0歳時・育児で頼りにした人（自由記述・複数回答）

N(%)

		N 幼稚園		T 保育園		計	
身内	配偶者	40(67.8)	71 (120.3)	7(38.8)	18 (100.0)	47(61.0)	89 (115.6)
	実母(祖母)	16(21.1)		10(55.6)		26(33.8)	
	両親・父(祖父母)	6(10.7)		0		6(7.8)	
	姉妹	3(5.1)		0		3(3.9)	
	娘(14歳、7歳)	2(3.4)		0		2(2.6)	
	義母	4(6.8)		1(5.6)		5(6.5)	
他人	友達	7(11.9)	11 (18.6)	2(11.1)	3 (16.7)	9(11.7)	14 (18.2)
	助産師	1(1.7)		0		1(1.3)	
	メンタルクリニック	1(1.7)		0		1(1.3)	
	育児書	1(1.7)		1(5.6)		2(2.6)	
	社会資源	1(1.7)		0		1(1.3)	
なし		2(3.4)		0		2(2.6)	
回答者数		59		18		77	

表 15 1歳時・育児で頼りにした人（自由記述・複数回答）

N(%)

		N 幼稚園		T 保育園		計	
身内	配偶者	36(67.9)	53 (100.0)	8(47.0)	17 (100.0)	44(62.9)	70 (100.0)
	実母	10(18.9)		9(52.9)		19(27.1)	
	両親・父(祖父母)	2(3.8)		0		2(2.9)	
	姉妹	1(1.9)		0		1(1.4)	
	娘(15歳、8歳)	2(3.8)		0		2(2.9)	
	義母	2(3.8)		0		2(2.9)	
他人	友達	12(22.6)	12 (22.6)	2(11.8)	3 (17.6)	14(20.0)	15 (21.4)
	育児書	0		1(5.9)		1(1.4)	
なし		4(7.5)		0		4(5.7)	
回答者数		53		17		70	

表 16 2歳時・育児で頼りにした人（自由記述・複数回答） N(%)

		N 幼稚園		T 保育園		計	
身内	配偶者	34(65.4)	55 (105.8)	6(40.0)	13 (86.7)	40(59.7)	68 (101.5)
	実母	13(25.0)		7(46.7)		20(29.9)	
	両親・父(祖父母)	3(5.8)		0		3(4.5)	
	姉妹	2(3.8)		0		2(3.0)	
	娘(16歳、9歳)	2(3.8)		0		2(3.0)	
	義母	1(1.9)		0		1(1.5)	
他人	友達	14(26.9)	15 (28.8)	1(6.7)	3 (20.0)	15(22.4)	18 (26.9)
	保育園の先生	1(1.9)		2(13.3)		3(4.5)	
なし		4(7.7)		0		8(11.9)	
回答者数		52		15		67	

表 17 3歳時・育児で頼りにした人（自由記述・複数回答） N(%)

		N 幼稚園		T 保育園		計	
身内	配偶者	37(77.1)	52 (108.3)	5(41.7)	12 (100.0)	42(70.0)	64 (106.7)
	実母	6(12.5)		6(50.0)		12(20.0)	
	両親・父(祖父母)	3(6.3)		0		3(5.0)	
	姉妹	2(4.2)		0		2(3.3)	
	娘(17歳、10歳)	2(4.2)		0		2(3.3)	
	義母	2(4.2)		1(8.3)		3(5.0)	
他人	友達	12(25.0)	13 (27.1)	1(8.3)	3 (25.0)	13(21.7)	16 (26.7)
	保育園の先生	1(2.1)		1(8.3)		2(3.3)	
	会社の上司	0		1(8.3)		1(1.7)	
なし		4(8.3)		0		4(6.7)	
回答者数		48		12		60	

表 18 には、子どもが泣く時の対処法を示した。最も多かった回答は「抱っこして泣きやむのを待つ」の 46.1%であったが、「泣きやむまで放っておく」という回答も 32.6%と少なくはなかった。

表 18 子どもが泣く時の対処法（複数回答）

N(%)

	苦勞あり群	苦勞なし群	計
抱っこして泣きやむのを待つ	36 (52.2)	5 (25.0)	41 (46.1)
言葉かけ・機嫌を取る	31 (44.9)	3 (15.0)	34 (38.2)
場所を変えて気分転換を図る	25 (36.2)	8 (40.0)	33 (37.2)
泣きやむまで放っておく	22 (31.9)	7 (35.0)	29 (32.6)
口で叱る	15 (21.7)	1 (5.0)	16 (18.0)
叩く	0	0	0
その他	2 (2.9)	4 (20.0)	6 (6.7)
回答者数	69	20	89

### 3. 育児の苦勞を生じさせる要因

表 10～13 に示したように、育児について「特に苦勞と思ったことはない」と回答した母親は多くはなかった。特に調査対象者の少ない T 保育園では、子どもの年齢によって 1 名から 3 名と少数であった。したがって、育児の苦勞を生じさせる要因についての検証は、N 幼稚園と T 保育園の結果をまとめて行うこととした。以後、「特に苦勞と思ったことはない」と回答した群を「苦勞なし群」、いずれかの苦勞をありとした回答者を「苦勞あり群」と表記する。なお、子どもの年齢を表記していない場合は、3 歳の時の苦勞の有無を示している。

#### (1) 母親の年齢と職業の有無

表 19 と表 20 では、0 歳の時と 3 歳の時の育児上の苦勞の有無と母親の年齢を比較した。0 歳の時には、20 歳台の「苦勞あり群」と「苦勞なし群」とも差はないが、30 歳台では「苦勞なし群」がやや多く、40 歳台になると「苦勞あり群」が増えるという結果であった。3 歳の時には全体的に「苦勞なし群」が 1 歳の時よりも増えるが、「苦勞あり群」と比べて「苦勞なし群」の割合が多いのは 20 歳台で、次に 30 歳台、40 歳台の順番であった。

母親の職業の有無との関係を表 21 に示した。表 10～13 に示したように、育児と仕事の両立は、育児上の苦勞の一つであり、「職業なし」の母親に「苦勞なし群」が多い傾向がみられた。

表 19 現在の母親の年齢と 0 歳時・育児上の苦勞の有無

N(%)

	苦勞あり群	苦勞なし群	計
20 歳代	7 (9.0)	1 (9.1)	8 (9.0)
30 歳代	54 (69.2)	10 (90.9)	64 (71.9)
40 歳代以上	11 (14.1)	0	11 (12.4)
不明	6 (7.7)	0	6 (6.7)
計	78 (100.0)	11 (100.0)	89 (100.0)

表 20 母親の年齢と3歳時・苦勞の有無

N(%)

	苦勞あり群	苦勞なし群	計
20歳代	5 (7.2)	3 (15.0)	8 (9.0)
30歳代	47 (68.1)	15 (75.0)	62 (72.1)
40歳代以上	9 (13.6)	2 (10.0)	11 (12.8)
不明	8 (11.6)	0	8 (9.0)
計	69 (100.0)	20 (100.0)	89 (100.0)

表 21 母親の職業の有無と育児上の苦勞の有無

N(%)

	苦勞あり群	苦勞なし群	計
職業あり	32 (46.4)	8 (40.0)	40 (44.9)
職業なし	33 (47.8)	12 (60.0)	45 (50.6)
不明	4 (5.8)	0	4 (4.5)
計	69 (100.0)	20 (100.0)	89 (100.0)

(2) 子どもの条件

調査対象となった3歳の子どもの性別と苦勞の有無との関係は、表22のとおりであった。

「苦勞なし群」に男児の方がやや多いという結果であったが、大きな差はみられなかった。

表23には、子どもの人数と苦勞の有無の関係をまとめた。子どもの人数が2人という回答者が最も多かったのだが、子どもの人数が3人以上になると、「苦勞なし群」の割合が高くなる傾向がみられた。

表 22 対象児の性別と育児上の苦勞の有無

N(%)

	苦勞あり群	苦勞なし群	計
男児	33 (47.8)	11 (55.0)	44 (49.4)
女児	33 (47.8)	9 (45.0)	42 (47.2)
不明	3 (4.3)	0	3 (3.4)
計	69 (100.0)	20 (100.0)	89 (100.0)

表 23 子どもの人数と育児上の苦勞の有無

N(%)

	苦勞あり群	苦勞なし群	計
1人	19 (27.5)	4 (20.0)	23 (25.8)
2人	39 (56.5)	11 (55.0)	50 (56.2)
3人以上	8 (11.6)	5 (25.0)	13 (14.9)
不明	3 (4.3)	0	3 (3.4)
計	69 (100.0)	20 (100.0)	89 (100.0)

同じく3歳の対象児の出生順位と苦勞の有無との関係は、表24のとおりであり、第2子に「苦勞なし群」が、第1子の2倍の割合にまで多くなっている。

表24 対象児の出生順位と育児上の苦勞の有無 N(%)

	苦勞あり群	苦勞なし群	計
第1子	33 (47.8)	6 (30.0)	39 (43.8)
第2子	26 (37.7)	12 (60.0)	38 (42.7)
第3子以降	8 (11.6)	2 (10.0)	10 (11.2)
不明	2 (2.9)	0	2 (2.2)
計	69 (100.0)	20 (100.0)	89 (100.0)

### (3) 家族構成と住居形態

表25と表26に示したように、家族構成との関係では、核家族に「苦勞なし群」がやや多く、住居形態については、一戸建て住宅よりも集合住宅の方に「苦勞あり群」が多かった。

表25 家族構成と育児上の苦勞の有無 N(%)

	苦勞あり群	苦勞なし群	計
核家族	56 (81.2)	18 (90.0)	74 (83.1)
拡大家族	8 (11.6)	2 (10.0)	10 (11.2)
その他	5 (7.2)	0	5 (5.6)
計	69 (100.0)	20 (100.0)	89 (100.0)

表26 住居形態と育児上の苦勞の有無 N(%)

	苦勞あり群	苦勞なし群	計
一戸建て	26 (37.7)	10 (50.0)	36 (40.4)
集合住宅	39 (56.5)	9 (45.0)	48 (53.9)
不明	4 (5.8)	1 (5.0)	5 (5.6)
計	69 (100.0)	20 (100.0)	89 (100.0)

### (4) 育児の方針

表27に示したように、自分自身の子育ての方針が厳しいか否かと苦勞の有無の関係を調べてみると、「時と場合による」という回答が最も多かったのだが、「のんびり」という方針をとる母親は「苦勞あり群」に多いことが分かる。

さらに表28には、育児上で大切だと思うこととの関係を示した。両群とも大切だと思う主な項目に大差はないが、「苦勞あり群」が大切だと思う主な項目は、「子どもが友達と仲良くする」59.4%、「親子の気持ちが通じ合う」56.5%、「健康であればよい」53.6%、「自主的に

なれるよう意思表示ができる」52.2%、「園でうまくやってゆける」47.8%であったのに対し、「苦勞なし群」は、「健康であればよい」75%、「子どもが友達と仲良くする」65%とその割合が高く、次に「親子の気持ちが通じ合う」55.0%、「自主的になれるよう意思表示ができる」40.0%という結果であった。

表 27 育児の方針と育児上の苦勞の有無 N(%)

	苦勞あり群	苦勞なし群	計
厳しい	13 (18.8)	4 (20.0)	17 (19.1)
時と場合による	45 (65.2)	15 (75.0)	60 (67.4)
のんびり	8 (11.6)	1 (5.0)	9 (10.1)
不明	3 (4.3)	0	3 (3.4)
計	69 (100.0)	20 (100.0)	89 (100.0)

表 28 育児で大切なこと(重複回答)と苦勞の有無 N(%)

	苦勞あり群	苦勞なし群	計
子どもが友達と仲良くする	41 (59.4)	13 (65.0)	54 (60.7)
健康であればよい	37 (53.6)	15 (75.0)	52 (58.4)
親子の気持ちが通じ合う	39 (56.5)	11 (55.0)	50 (56.2)
自主的に意思表示ができる	36 (52.2)	8 (40.0)	44 (49.4)
園でうまくやってゆける	33 (47.8)	7 (35.0)	40 (44.9)
子どもの気持を受け止める	10 (14.5)	2 (10.0)	12 (13.5)
言うことを聞く素直な子	8 (11.6)	1 (5.0)	9 (10.1)
成長の指標に送れない	6 (8.7)	1 (5.0)	7 (7.9)
けいこ事で可能性を伸ばす	3 (4.3)	2 (10.0)	5 (5.6)
その他	8 (11.6)	4 (20.0)	12 (13.5)
回答者数	69	20	89

### (5) 生活習慣

生活習慣について、本論文では起床時間と就寝時間を取り上げた。表 29～36 には、2歳の時と3歳の時の平日・休日それぞれの起床時間と就寝時間と苦勞の有無との関係について示した。表 29 は 2歳の時の平日の起床時間示しているが、両群とも「7時台前半」に起床時間のピークがある。その中で「苦勞あり群」が5時台から9時台後半まで起床時間が続くのに対して、「苦勞なし群」は「8時台前半」までに全員が起床している。表 30 の2歳の時の平日の就寝時間については、両群とも「21時台前半」に就寝時間のピークがあるが、「苦勞あり群」は24時以降まで続き、「苦勞なし群」の一部には24時以降に就寝する例外があるもの

の、大半は21時台前半までに就寝している。休日になると、表31に示したように、2歳の時の起床時間は両群とも平日よりも多少遅くなる傾向がみられるが、起床時間のピークは「7時台前半」で平日と同じである。その中で「苦勞あり群」が「10時以降」まで起床時間が続くのに対し、「苦勞なし群」は「8時台前半」までに全員が起床していることも平日と変わらない。休日の2歳の時の就寝時間は、両群とも「21時台前半」が就寝時間のピークである中で、「苦勞あり群」が24時以降まで続くのに対し、「苦勞なし群」は、平日と同様24時以降に就寝する例外もあるが、大半は「21時台後半」までに就寝している(表32)。

表 29 2歳時・平日の起床時間と苦勞の有無 N(%)

	苦勞あり群	苦勞なし群	計
5時台	1 (1.3)	0	1 (1.1)
6時台前半	6 (7.8)	3 (25.0)	9 (10.1)
6時台後半	13 (16.9)	1 (8.3)	14 (15.7)
7時台前半	25 (32.5)	5 (41.7)	30 (33.7)
7時台後半	9 (11.7)	2 (16.7)	11 (12.4)
8時台前半	14 (18.2)	1 (8.3)	15 (16.9)
8時台後半	3 (3.9)	0	3 (3.4)
9時台前半	2 (2.6)	0	2 (2.2)
9時台後半	1 (1.3)	0	1 (1.1)
不明	3 (3.9)	0	3 (3.4)
回答者数	77	12	89

表 30 2歳時・平日の就寝時間と苦勞の有無 N(%)

	苦勞あり群	苦勞なし群	計
19時台	4 (5.2)	1 (8.3)	5 (5.6)
20時台前半	8 (10.4)	1 (8.3)	9 (10.1)
20時台後半	7 (9.1)	2 (16.7)	9 (10.1)
21時台前半	21 (27.3)	5 (41.7)	26 (29.2)
21時台後半	12 (15.6)	0	12 (13.5)
22時台前半	8 (10.4)	1 (8.3)	9 (10.1)
22時台後半	3 (3.9)	0	3 (3.4)
23時台前半	6 (7.8)	0	6 (6.7)
23時台後半	2 (2.6)	0	2 (2.2)
24時以降	3 (3.9)	2 (16.7)	5 (5.6)
不明	3 (3.9)	0	3 (3.4)
回答者数	77	12	89

表 31 2歳時・休日の起床時間と苦勞の有無 N(%)

	苦勞あり群	苦勞なし群	計
6時台前半	3 (3.9)	1 (8.3)	4 (4.5)
6時台後半	4 (5.2)	2 (16.7)	6 (6.7)
7時台前半	23 (29.9)	5 (41.7)	28 (31.5)
7時台後半	7 (9.1)	2 (16.7)	9 (10.1)
8時台前半	18 (23.4)	2 (16.7)	20 (22.5)
8時台後半	6 (7.8)	0	6 (6.7)
9時台前半	9 (11.7)	0	9 (10.1)
9時台後半	1 (1.3)	0	1 (1.1)
10時以降	1 (1.3)	0	1 (1.1)
不明	5 (6.5)	0	5 (5.6)
回答者数	77	12	89

表 32 2歳時・休日の就寝時間と苦勞の有無 N(%)

	苦勞あり群	苦勞なし群	計
19時台	2 (2.6)	1 (8.3)	3 (3.4)
20時台前半	6 (7.8)	2 (16.7)	8 (9.0)
20時台後半	2 (2.6)	1 (8.3)	3 (3.4)
21時台前半	19 (24.7)	3 (25.0)	22 (24.7)
21時台後半	14 (18.2)	1 (8.3)	15 (16.9)
22時台前半	16 (20.8)	0	16 (18.0)
22時台後半	2 (2.6)	1 (8.3)	3 (3.4)
23時台前半	5 (6.5)	0	5 (5.6)
23時台後半	2 (2.6)	0	2 (2.2)
24時以降	5 (6.5)	2 (16.7)	7 (7.9)
不明	4 (5.2)	1 (8.3)	5 (5.6)
回答者数	77	12	89

表 33 に示した 3 歳の時の平日の起床時間は、2 歳の時と同様「7 時台前半」にピークがあるが、「苦勞あり群」が「8 時台前半」まで起床しているのに対し、「苦勞なし群」は「7 時台前半」までに全員が起床している。その差はわずか 30 分であるものの、「苦勞なし群」の方が早い時間に起床を終えている。表 34 の 3 歳の時の平日の就寝時間は、両群とも「21 時台前半」がピークであり、「苦勞あり群」が「24 時以降」まで続くのに対し、「苦勞なし群」は 1 人の例外を除いて「21 時台前半」までに就寝している。休日になると、両群とも起床時



間はやや遅くなっているが、「苦勞あり群」のピークが「8時台前半」であるのに対し、「苦勞なし群」のピークは、平日と同じ「7時台前半」であり、「8時台後半」までに全員が起床している（表 35）。3歳の時の休日の就寝時間のピークは両群とも「21時台前半」であり、両群の一部の「24時以降」の例外を除いて、「苦勞あり群」の就寝時間が「23時台前半」まで続くのに対し、「苦勞なし群」は「22時台前半」までに就寝している（表 36）。

表 33 3歳時・平日の起床時間と苦勞の有無 N(%)

	苦勞あり群	苦勞なし群	計
5時台	3 (4.3)	0	3 (3.4)
6時台前半	11 (15.9)	5 (25.0)	16 (18.0)
6時台後半	19 (27.5)	4 (20.0)	23 (25.8)
7時台前半	21 (30.4)	8 (40.0)	29 (32.6)
7時台後半	9 (13.0)	3 (15.0)	12 (13.5)
8時台前半	3 (4.3)	0	3 (3.4)
8時台後半	0	0	0
9時台前半	0	0	0
9時台後半	0	0	0
不明	3 (4.3)	0	3 (3.4)
回答者数	69	20	89

表 34 3歳時・平日の就寝時間と苦勞の有無 N(%)

	苦勞あり群	苦勞なし群	計
19時台	6 (8.7)	2 (10.0)	8 (9.0)
20時台前半	8 (11.6)	6 (30.0)	14 (15.7)
20時台後半	12 (17.4)	4 (20.0)	16 (18.0)
21時台前半	17 (24.6)	7 (35.0)	24 (27.0)
21時台後半	13 (18.8)	0	13 (14.6)
22時台前半	3 (4.3)	0	3 (3.4)
22時台後半	4 (5.8)	0	4 (4.5)
23時台前半	2 (2.9)	0	2 (2.2)
23時台後半	1 (1.4)	0	1 (1.1)
24時以降	0 (1.4)	1 (5.0)	1 (1.1)
不明	3 (4.3)	0	3 (3.4)
回答者数	69	20	89

表 35 3歳時・休日の起床時間と苦勞の有無 N(%)

	苦勞あり群	苦勞なし群	計
6時台前半	6 (8.7)	3 (15.0)	9 (10.1)
6時台後半	6 (8.7)	3 (15.0)	9 (10.1)
7時台前半	17 (24.6)	6 (30.0)	23 (25.8)
7時台後半	10 (14.5)	4 (20.0)	14 (15.7)
8時台前半	20 (29.0)	3 (15.0)	23 (25.8)
8時台後半	3 (4.3)	1 (5.0)	4 (4.5)
9時台前半	3 (4.3)	0	3 (3.4)
不明	4 (5.8)	0	4 (4.5)
回答者数	69	20	89

表 36 3歳時・休日の就寝時間と苦勞の有無 N(%)

	苦勞あり群	苦勞なし群	計
19時台	1 (1.4)	1 (5.0)	2 (2.2)
20時台前半	4 (5.8)	5 (25.0)	9 (10.1)
20時台後半	6 (8.7)	4 (20.0)	10 (11.2)
21時台前半	20 (29.0)	7 (35.0)	27 (30.3)
21時台後半	18 (26.1)	0	18 (20.2)
22時台前半	5 (7.2)	2 (10.0)	7 (7.9)
22時台後半	3 (4.3)	0	3 (3.4)
23時台前半	4 (5.8)	0	4 (4.5)
23時台後半	0	0	0
24時以降	2 (2.9)	1 (5.0)	3 (3.4)
不明	6 (8.7)	0	6 (6.7)
回答者数	69	20	89

以上の結果から、「苦勞なし群」の子どもは、平日休日に関わらず「7時台前半」には起床、「21時台前半」には就寝する早寝早起きの習慣が身につけている者が多いといえることができる。

(6) 自由記述による意見

表 37 には、自由記述欄に書かれた育児に関する意見の内容を要約して示した。主な意見は、①今の社会が安心して子育てができる状況にないこと ②子育ての社会制度に不備の点が多いこと ③社会の中で出会う人々が育児に無関心だったり、冷たかったりすること ④小学校に入学したらいじめなどが心配であること ⑤育児に協力者が必要だが得られていないことなどであった。

「苦勞なし群」の記述は、53名中6名だけであったが、表中の⑩と⑪に示したように、子育ての中で他人に親切にされた経験が忘れられず「育児は一人ではできず周りに育ててもらっている」という信念を持ったり、子どもがのびのびと遊べる環境が人的にも物理的にも恵まれていることを喜んでいたりしている記述は、「苦勞なし群」に特有のものであった。

表 37 自由記述意見（要約）と苦勞の有無

N=件数

	苦勞あり群	苦勞なし群
①安心して遊ばせる場所がない、犯罪が心配	11	0
②児童手当を増やす、本気の少子化対策、公共施設に母子の居場所を、夫の育児時間を、専業ママへの支援を	10	0
③社会の目が子育てに冷たい、集合住宅で苦情が多い、見て見ぬふり、思いやりを、暖かい社会を、まだまだ男社会	8	0
④小学校でよい先生に当たるか、不登校、いじめ、ゲームに夢中にならないか	7	0
⑤育児には協力者が必要、体調不良でも預ける所がない、育児の負担が母親に集中	6	0
⑥時代が変わり情報過多で育児方針がぶれる、どこまで子ども目線にすべきか、昔のように畑仕事の手伝いなどなし	4	0
⑦核家族一人っ子で心配、近所に遊べる友達がない	3	1
⑧子どもの生活が大人のペースになりがち、遅くまで子どもの声が聞こえる	3	1
⑨今は親も大人も子どもを叱らない、我慢させない、親子・大人と子どもの上下関係が欠けている	3	
⑩育児を優先するとキャリアが無に、パートでは苦勞の成果が得られない	2	0
⑪子育てにお金がかかりすぎる、人生を楽しむと高くつく	2	0
⑫共働きは子どもへの負担が大きい、育児に関して専業主婦が少なくなっても良いのか	2	0
⑬子どもが言うことを聞かない、疲れる、ストレス大	2	0
⑭核家族で年寄りとの触れ合いがない、人生経験が聞けない、育児には大家族が必要	1	1
⑮祖父母の考え方は古い	0	1
⑯バスで「お母さん体を休めて」と席を譲られ感激、育児は一人では不可能、周りに育ててもらっている	0	1
⑰集合住宅で友達と目一杯遊べる環境でよかった	0	1
⑱生活上の自立が遅れているのは自分が悪いのか	1	0
⑲母乳が出て子育てに自信	1	0

注) 記述者数は53名。

#### IV. 考察

育児上の苦勞の有無を分けるものは何か、苦勞を生じさせる要因は何かについて検証してゆく。

##### 1. 母親の属性と苦勞の有無

育児上の苦勞の有無と母親の年齢を考えると、一般的には、年齢が高ければ高くなるほど、育児や人生の経験が重なり苦勞が減少するように思われるが、今回の調査結果では、必ずしもそれを裏付ける結果は得られなかった。0歳時には30歳台、3歳時には20歳台に「苦勞なし群」が多く、40歳台が少なかったことから、育児の苦勞の有無には体力や新しい環境に順応する柔軟性が関係していると推測されるが、一方で0歳の時よりも3歳の時に「苦勞なし群」が増えることから、子どもの成長の要因とともに母親の経験も全く無関係とは言い切れない。このことに関して結論を出すには更なる調査が必要である。

母親の職業の有無との関係では、「職業なし」に「苦勞なし群」が多いという結果を得た。表11～13の苦勞の内容に「育児と仕事の両立」が上位に挙げられていることから、時間的な余裕の有無が、育児上の苦勞の有無に関係していると推測される。

##### 2. 子どもの条件と苦勞の有無

子どもの人数と苦勞の有無の関係を考えると、子どもの人数が増えれば、子どもの扱いにも慣れて苦勞は減少すると思われる。今回の調査では、子どもの人数は2人という家族が最も多かったのだが、「苦勞なし群」では、子どもの人数が多くなるにつれて、苦勞なしの割合が多くなる傾向が見られた。調査対象児の出生順と苦勞の有無との関係では、第2子以降の方に「苦勞なし」という回答が多かった。

調査対象児の性別と苦勞の有無を考えると、俗説では、男の子は育てにくいと言われたりしているが、今回の調査結果では、反対に男児の方が「苦勞なし群」にやや多く、差は見られなかった。

以上の結果から、子どもの人数や出生順位によって、親の経験が積み重なり苦勞が減少する可能性があると考えられる。子どもの性差については、違いはみられなかった。

##### 3. 家族構成・住居形態と苦勞の有無

表37の④に示したように、自由意見では、子育てには親だけでなく他者の手助けが必要であり、拡大家族が必要であるとの見解が述べられているが、今回の調査では、拡大家族に暮らす母親に「苦勞あり群」の方が多かった。同じく表36の⑤に記したように「祖父母の考え方は古い」という意見もあり、理想と現実は異なるということであろうか。ただ単に拡大家族であれば人手があるので、親の苦勞は減少するとは言い切れないという結果であった。

その一方で、育児の手助けについては、多くの場合「身内」に頼っている。その身内の約半数は配偶者であり、その次は実母である。少数ながら援助者がいないという回答もあり、保育園児

の母親の回答には、「保育園」とか「保育士」が援助者であるという回答がほとんどみられなかったことなどから、子育ては家族だけで、あるいは身内で完結させるものという意識であることがうかがえる。鯨岡が指摘するように、社会構造が変わり、地域社会で援助することがなくなったことを示し、地域には頼らないものだという状況を示しているともいえよう。

住居形態については、一戸建ての住居に住んでいる方が「苦勞なし群」が多かった。表 37 の中の③に記したように、集合住宅では子どもが飛び跳ねたり騒いだりする騒音問題などで苦情を受けることから、このような結果になったと推測できる。しかし、同表の⑩に記したように、自らの住む集合住宅は物理的な環境もよく子どもの友人関係に恵まれていてよかった、という意見もある。集合住宅では、子どもの発する騒音に対して苦情を受ける可能性は高いものの、肝心なのは、そこでの人間関係のありようであろう。単に集合住宅か、一戸建て住宅かという物理的な条件だけで結論を出すことは難しい。

#### 4. 育児の状況と苦勞の有無

##### (1) 主たる養育者とその役割に対する納得度

主たる養育者が母親であることに対する納得度については、約4分の3が「納得している」という回答であり、4分の1が「時々納得できない」という回答であった。その改善策として、幼稚園児の母親は「配偶者の理解」を求めているが、保育園で児の母親は自らも働いていて職場の事情が分かるせいか、「社会制度の改善」が必要であると述べている。鯨岡のいうように、「気がつけばすべての責任を負わされている」と気付いてイライラするということは、今回の調査では少数派に属するといえよう。

##### (2) 育児上の喜びと育児の方針

子どもに対してうれしいと感じた内容は、0歳の時には、「初めて何かができること、成長」「無事に誕生したこと」「笑顔に接するとき」などが主なものであり、初めて接する赤ちゃんに対して、心から喜んでいる様子がうかがえる。1歳の時には「何かができるようになったこと、成長」が66.7%と圧倒的に多かったが、昔から「這えば立て、立てば歩めの親心」と言われているように、子どもの成長を喜ぶのは、古今東西変わらぬ親の心情といえよう。さらに、育児上で大切に思う項目の中で「成長の指標に遅れない」「けいこ事で可能性を伸ばす」という回答者は少数であった。したがって、今回の調査結果をもって、鯨岡のいうように、「社会の求める価値観に引きずられている」母親は、それほど多くはないのではないかと思われる。

鯨岡は、育児の両義性として、子どもの気持ちを優先させて育てたいと思う一方で、しつけを含めた親の言うとおりにしてもらいたいという欲求をもつ、親のジレンマを挙げている。そのことに伴い、育児の方針が厳しいか否かについてみると、「時と場合による」が最も多い回答であったが、「苦勞あり群」に「のんびり」の方針であるという回答が多かった。のんびりと子どものペースに合わせて育児をすることは、親に我慢を強いる可能性が高い。一

方、育児上で大切だと思う項目との関係でみると、「苦勞あり群」は、「子どもが友達と仲良くする」、「親子の気持ちが通じ合う」、「健康であればよい」、「自主的になれるよう意思表示ができる」、「園でうまくやってゆける」などが50%前後であり、広範囲に多くのことを望んでいる。それに対し、「苦勞なし群」は、「健康であればよい」75%、「子どもが友達と仲良くする」65%、「親子の気持ちが通じ合う」55.0%という結果から、「健康」と「友達と仲良く」を多く望んでいるところに違いがみられた。「苦勞なし群」が望んでいることの方が「のんびり」ではないかと思わせる結果であった。

### (3) 生活習慣

起床時間と就寝時間の生活習慣が身についているか否かと育児上の苦勞有無を検証すると、結果の項で述べたように、調査対象児が2歳の時でも3歳の時でも、平日・休日にかかわらず、早寝早起きの生活習慣が身についていると、育児上の苦勞は減少する可能性は高い。つまり、早寝早起きの習慣が身についていると、子ども自身が自主的に行動できるので、親は子どもに対して「早く寝なさい」「早く起きなさい」と始終言わなくても済むし、子どもの身辺自立につながり、親の「苦勞」は減少するということであろう。その習慣を身につけさせるまでには、ある種の「厳しさ」も必要であろう。子どもの言うままに「遅寝遅起き」を認めることが、子どもの自主性を認めることにはならず、親子とも苦勞を増やすことになる。その迷いは、表37の⑥にあるように、どこまで子ども目線にすべきか、育児の方針がぶれるなどの記述になって表われている。さらに同表⑧の記述には、生活の自立が遅れているのは自分が悪いのかと母親自身を責める内容もある。

### (4) 育児上の苦勞の内容

育児上の苦勞と感じた主な内容は、結果の項で述べたように、子どもが0歳の時には「自由時間がとれない」「夜泣きなど泣きに関すること」「自分の健康維持、体調不良」、1歳の時には「動きまわるので目が離せない」「少食など食に関すること」「自由時間がとれない」、2歳の時には「自由時間がとれない」「子どもが言うことをきかない」「子どもの食に関すること」、3歳の時には「子どもが言うことをきかない」「自由時間がとれない」「仕事と育児の両立」であった。

これらの内容をみると、子どもに対する苦勞は0歳の時の「夜泣き」、1歳時・2歳時の「食に関すること」、2歳時・3歳時の「言うことを聞かない」は、いずれも母親の手の施しようがない、あるいは育児書どおりにできないことに由来しているようである。つまり自分の思いどおりにならないことが「苦勞」として挙げられていることが分かる。

さらに母親の自由時間がないことや体調不良など、直接育児に関わるのではなく、育児による束縛感が「苦勞」と感じられており、鯨岡の言うように、育児は「自分の思いどおりのならない初めての体験」であるのかもしれない。

冒頭で述べたように、子どもが泣く時の対処法には、決まったマニュアルのようなものは

ない。鯨岡が言うように、「黙って抱えじっとしばらく付き合う」しかなく、これといった速効性のある解決策はない。回答者の対処法は、「抱っこして泣きやむのを待つ」の 46.1%と最も多く、母親たちがじっと「泣き」につきあっている一方で、「泣きやむまで放っておく」という回答が 32.6%と少なくはないことに、自分の思いどおりにいかないことに途方に暮れているようすもうかがえる。「苦勞あり群」の対処法は「抱っこして泣きやむのを待つ」「言葉かけをしたり機嫌を取ったりする」「口で叱る」が「苦勞なし群」よりも多かった。「苦勞なし群」は、「苦勞あり群」に比べて、子どもが泣く時に対処することが少なく済んでいるということに違いがみられたが、両群とも「泣きやむまで放っておく」は 30%強であり、この点は、さらに調査を重ねる必要があろう。

表 37 の⑩には、母親自身のキャリアを断念することへの無念さが表れている。鯨岡の言うように「現代社会では、自己の欲望を充足させることが幸せであると錯覚しているが、自らの欲望の何割かを割かなければ親として成熟することができない」状況へのジレンマが感じられる。

#### (5) 他者との関係

表 37 に示した自由記述欄に書かれた意見をみると、今の社会では子どもを狙った犯罪もあり安心して子育てができる状況にないことが第一に挙げられている。子育ての社会制度に不備が多く、世の中で出会う人々が育児に無関心だったり、冷たかったりすること、育児に協力者が必要だが得られていないことなどが述べられている。確かに、現在の日本社会がかつてのように安全でなくなった一面があることは否定できなし、育児中の母親たちが孤独な状況に置かれていることも推測できる。さらに少子化の影響で、子どもの遊び友達がいないことも苦勞の一つとして挙げられている。

その一方で、子育ての中で他人に親切にされ「育児は一人ではできず周りの育ててもらっている」という信念を述べたり、子どもがのびのびと遊べる環境が人的にも物理的にも恵まれていることを喜んでいたりしている記述は、育児の環境には人とのつながりが必要であることを示唆している。

前述のように、育児で最も頼りにしたのは夫が最も多いものの、その割合は 6 割前後である。子どもの年齢が上がるにつれて実母に頼る割合は減り、徐々に「他人」の中の「友達」が増えていることが、社会に開かれた育児につながってゆく可能性があると考えたい。

## V. 要約

N 幼稚園と T 保育園の保護者 89 名の協力を得て、日常の育児のようすや子どもの状況について質問紙法による調査を実施した。その結果は以下のものであった。

1. 育児上の苦勞の有無と、母親の年齢との関係は、年齢が高ければ経験が増えて「苦勞なし

群」が増えるとは限らなかった。「苦勞なし群」には職業なしの母親が多い傾向がみられた。

2. 「苦勞なし群」の子どもの条件については、子どもの人数が2人以上であったり、出生順位が2位以降である傾向がみられたが、子どもの性差には違いはみられなかった。
3. 家族構成は、核家族の方が「苦勞なし群」が多かった。育児上で最も頼りにしたのは約半数が夫であり、次は実母であったが、大部分を「身内」に頼り、地域社会とのつながりはほとんどないことが明らかになった。集合住宅での育児は、子どもの出す騒音に苦情が寄せられることなどから、一戸建て住宅の方に「苦勞なし群」が多かった。
4. 母親が主たる養育者であることに4分の3の回答者は納得しているが、4分の1は時々納得できないと回答している。改善策として、夫の理解と社会制度の改善を挙げている。
5. 自由記述による回答で、子どもの成長は親の大きな喜びとして述べられていた。一方、厳しく育てるか否かについては「時と場合による」が最も多い回答であった。その中で「苦勞あり群」に「のんびり」とする回答が多かったが、育児上で大切だと思うことで「苦勞なし群」は、「健康」と「友達と仲良く」の割合が突出しており、日々の生活の中では「苦勞なし群」こそ、子どもに「のんびり」と接しているのではないかと推測された。

また、子どもが泣く時の対処に追われる割合は、「苦勞あり群」に多かった。

6. 「苦勞なし群」の子どもたちは早寝早起きの生活習慣が身についているという結果から、子どもたちの要求のままに遅寝遅起きを認めてしまうことは、苦勞の種を増やすことになりかねないことが推測された。
7. 育児上の苦勞には、母親の自由時間がとれないこと、子どもが母親の思いどおりになってくれないこと、頼れる人や場所が少ないこと、自分のキャリアをあきらめたこと等が挙げられ、鯨岡の指摘通り、若い母親たちの置かれた現代の日本社会の状況が反映していることが読み取れた。しかし、その一方で「苦勞なし群」は、公共の場で他人に母親自身が労わられて「子どもは周りにも育ててもらっている」という信念を持ったことや、集合住宅で人や場所に恵まれたことに力を得ているという結果から、人とのつながりが育児の苦勞を軽減させる可能性のあることが示唆された。

以上の結果を踏まえ、今後も縦断的に調査を継続していく予定である。



## 引用・参考文献

- 窪龍子・井狩芳子・野田耕、2005「幼児の心身の健康に関する研究－幼稚園児と保育園児の遊びの調査(1)」  
『実践女子大学人間社会学部紀要第一集』
- 窪龍子・井狩芳子・野田耕、2006「幼児の心身の健康に関する研究－幼稚園児と保育園児の遊びの調査(2)」  
『実践女子大学人間社会学部紀要第二集』
- 窪龍子・井狩芳子・野田耕、2007「幼児期の生活と遊びに関する研究－幼稚園児の降園後の遊びから「三間がない現象」について－」『実践女子大学人間社会学部紀要第三集』
- 窪龍子・井狩芳子、2008「母親が感じる育児上の「困難」に関する研究(1)－幼稚園と保育園における調査から－」『実践女子大学人間社会学部紀要第四集』
- 鯨岡峻 1999 『関係発達論の展開』ミネルヴァ書房
- 鯨岡峻・鯨岡和子 2001 『保育を支える発達心理学』ミネルヴァ書房
- 鯨岡峻 2002 『育てられる者から育てる者へ』NHK ブックス 938 日本放送協会

付記: 今回の調査にご協力下さったN幼稚園とT保育園の関係各位と保護者の方々に心よりの謝意を表す。

添付資料:

### 子どもの生活時間と育児に関する調査

この調査は、子どもの生活時間と育児の現状について調査するものです。この結果は、研究の目的以外には使用いたしませんし、個人の情報が特定されることもありませんので、率直にご回答いただきたく願います。今回の調査は、年少組のお子さんを対象にお答え下さい。

下記の各質問について、あてはまるものに○、( ) 内にはあてはまることをご記入下さい。

あなたのお名前(カタカナで): ( )	あなたの性別: 男 ・ 女	あなたの年齢: 満 歳 (現在の年齢を記入)	あなたの職業: あり ・ なし
家族構成 (○をつけてください) (1)親と子 (2)祖父・祖母、親と子 (3)その他 ( )			
お子さんの数 男児 人(年齢 ) 女児 人(年齢 )			
住居形態 (○をつけてください) (1)一戸建て (2)集合住宅(住んでいるのは 階)			
お子さんのお名前(カタカナで): ( )	お子さんの性別: 男 ・ 女	クラス名	

Q1. お子さんの生活時間についてお尋ねします。お子さんの生活時間をご記入ください。

なお、該当しない項目や不明の項目については、空欄のまま飛ばしてください。

1-1. 1年前(2歳頃)の平日の過ごし方(保護者の方の平日)

- ①起床時刻( 時 分)ごろ      ②朝食( 時 分)ごろ  
 ③昼食( 時 分)ごろ      ④あそび( 時間 分)位  
 ⑤昼寝( 時間 分)位      ⑥おけいこ事( 時間 分)位  
 ⑦就寝時刻( 時 分)ごろ

1-2. 1年前(2歳頃)の休日の過ごし方(保護者の方の休日)

- ①起床時刻( 時 分)ごろ      ②朝食( 時 分)ごろ  
 ③昼食( 時 分)ごろ      ④あそび( 時間 分)位  
 ⑤昼寝( 時間 分)位      ⑥おけいこ事( 時間 分)位  
 ⑦就寝時刻( 時 分)ごろ

1-3. 入園後の平日(保育園がある日)の過ごし方

- ①起床時刻( 時 分)ごろ      ②朝食( 時 分)ごろ  
 ③昼食( 時 分)ごろ      ④あそび( 時間 分)位  
 ⑤昼寝( 時間 分)位      ⑥おけいこ事( 時間 分)位  
 ⑦就寝時刻( 時 分)ごろ

1-4. 入園後の休日(保育園の休みの日)の過ごし方

- ①起床時刻( 時 分)ごろ      ②朝食( 時 分)ごろ  
 ③昼食( 時 分)ごろ      ④あそび( 時間 分)位  
 ⑤昼寝( 時間 分)位      ⑥おけいこ事( 時間 分)位  
 ⑦就寝時刻( 時 分)ごろ

Q2. お子さんの生活時間や内容が、保育園入園前に比べ、入園後に、大きく変わりましたか？ お気づきの内容をご記入ください。(例：遊び方・食欲・睡眠・情緒面・友だち関係・健康全般・興味・病気等)

( )

<次からは、育児に関する質問です>

Q3. 育児に関して“主たる養育者”についてお尋ねします。

3-1. あなたは、ご自分が育児に関して“主たる養育者”だと思いますか？

- (1) 主たる養育者である (2) 配偶者等と半々である (3) 従の養育者である

3-2. 上記で回答した状況については納得していますか？

- (1) 納得している → Q4.へ進んでください。  
(2) 時々、納得できないこともある (3) 納得できないことが多い → 3-3へ進んでください。

3-3. 上記で(2)と(3)に回答した方にお尋ねします。

どのような状況になればよいと思いますか。具体的に述べてください。

( )

Q4. あなたは、育児に関して、きびしくしつける方ですか、のんびりしている方ですか？

- (1) きびしくしつける方 (2) 時と場合による (3) のんびりしている方

Q5. 育児をする上で、いま最も大切にしていることは、どのようなことですか？(以下複数回答可)

- (1) 健康であれば何もいうことはない (2) 親子の気持ちを通じ合うこと  
(3) 子どもがお友達と仲良くできること (4) 園で先生や友達とうまくやっていけること  
(5) おとなのいうことをよくきく、素直な子どもであること  
(6) おけいこ事などをとおして、持っている可能性を伸ばせるようにすること  
(7) 子どもの気持ちを第一に考えて受けとめ、何よりも優先している  
(8) 子どもが、将来自主的な人になれるように、意思表示ができるようにすること  
(9) 一般的な成長の指標に遅れないように育てること  
(10) その他 ( )

Q6. 子どもが、理由もなく機嫌が悪かったり、泣きやまないときには、どのように対処してきましたか？

- (1) 何とか泣きやませようと言葉かけをしたり、機嫌をとったりする  
(2) 抱っこをしたりして泣き止むのを待つ (3) 泣きやむまで放っておく  
(4) 場所を変えるなど気分転換を図る (5) 口で叱る (6) 叩く (7) その他 ( )

Q7. 今まで、育児のなかで、最もうれしかったこと、苦労されたのはどのようなことですか？

また、最も頼りにしたのはどなたですか？

7-1. 0歳のとき

\*うれしかったこと ( )

\*苦労されたこと

- (1) 夜泣きなど泣きに関すること (2) お乳を飲まないなど食に関すること  
(3) 子どもの気持ちが分からなかったこと (4) 初めてのことで、すべてが大変だった  
(5) 自由な時間がとれなかったこと (6) 配偶者の協力が得られなかったこと  
(7) 常に世話をすることを求められたこと (8) 親しいママ友が得られなかったこと  
(9) 仕事と育児の両立 (10) 経済的なこと (11) 親達の口出し  
(12) 自分の健康保持、体調不良 (13) その他 ( )

(14) 特に苦勞と思ったことはなかった

\*このとき、最も頼りにした人 ( )

7-2. 1歳のとき

\*うれしかったこと ( )

\*苦勞されたこと

(1) 泣くことに関する事 (2) 食べる量が少ないなど食に関する事

(3) 子どもの気持ちが分からなかったこと (4) 日常の生活のすべてが大変だった

(5) 自由な時間がとれなかったこと (6) 配偶者の協力が得られなかったこと

(7) 活発に動き回るので、目が離せなかったこと (8) 親しいママ友が得られなかったこと

(9) 仕事と育児の両立 (10) 経済的なこと (11) 親達の口出し

(12) 自分の健康保持、体調不良 (13) その他 ( )

(14) 特に苦勞と思ったことはなかった

\*このとき、最も頼りにした人 ( )

7-3. 2歳のとき

(1) 泣くことに関する事 (2) 食べる量が少ないなど食に関する事

(3) 子どもの気持ちが分からなかったこと (4) 日常の生活のすべてが大変だった

(5) 自由な時間がとれなかったこと (6) 配偶者の協力が得られなかったこと

(7) 子どもがいうことを聞かないときがあること (8) 親しいママ友が得られなかったこと

(9) 仕事と育児の両立 (10) 経済的なこと (11) 親達の口出し

(12) 自分の健康保持、体調不良 (13) その他 ( )

(14) 特に苦勞と思ったことはなかった

\*このとき、最も頼りにした人 ( )

7-4. 3歳のとき

(1) 泣くことに関する事 (2) 食べる量が少ないなど食に関する事

(3) 子どもの気持ちが分からないこと (4) 日常の世話のすべてが大変である

(5) 自由な時間がとれないこと (6) 配偶者の協力が得られなかったこと

(7) 子どもがいうことを聞かないときがあること (8) 親しいママ友が得られなかったこと

(9) 仕事と育児の両立 (10) 経済的なこと (11) 親達の口出し

(12) 自分の健康保持、体調不良 (13) その他 ( )

(14) 特に苦勞と思ったことはなかった

\*このとき、最も頼りにした人 ( )

Q8. 子どもの生活時間に関して、また育児について、今の世の中に欠けていると思われること、子どもの将来について心配されていること、このアンケートについてお気づきのことなど、どのようなことでも自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました